

躍進

Y A K U S I N

No. 11

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日／平成2年8月15日

発行／株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL (0185)25-3001(代)
FAX (0185)25-2234



株式会社 加藤組

光 飯 商 事 株 式 会 社 日本アスコン株式会社
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社

加藤組百年の担い手 当社の若き群像

独身社員旅行 (小岩井農場にて)



雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ 夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ

新 知 故 温

足元をみつめ 大きく飛躍しよう

ふる 故きを 温ねて 新しきを 知る

専務取締役 沢田 正 司



沢田 専務

日本国中、帰省客であふれ交通機関、道路が混雑するお盆の時期になりました。お盆は、仏教の盂蘭盆会を略したもので、先祖の霊が家

これは発注者が求めている設計内容に対して、精度、施工管理、安全管理などが高く評価された結果ではありませんが、担当者の現場に対する使命感、創意工夫を重ね、仕事によって自分自身を磨き、努力したことが発注者側にも伝わったのだと思います。担当者はもちろん、社員全員が今回の業績を教訓にして、今後の事業遂行に当たっても良好な成果をおさめるよう期待しております。

第四十二回国土建設週間の行事の一環として、七月十二日に滝の下道路改良第一工事が、優良工事施工現場として東北地方建設局長から栄えある表彰を受け、当社の歴史に新しい一ページを加えることができました。現場の関係者に感謝するとともに祝福いたします。

いま地球住民は五十二億九千万人です。二十一世紀には六十二億六千万人になると予想されており、環境保護に真剣に取り組まなければ、子孫に毒にまみれた遺産を残すことになるかと警告されています。現在ほど世の中のスピード

曹洞宗では大本山永平寺の貫首、丹羽廉芳禅師が、釈迦の八十九代目の弟子になっております。

釈迦はインドのヒマラヤ地方の城主の子ですが、二十九歳のときに宮殿をでて、人間がこの世で逃れたい四つの苦しみである生、老、病、死を救うため苦学苦行しながら悟りを開き、その教えが仏教として現在まで受け継がれております。

に帰って来るといわれ、十三日に迎え火をたいて迎え、十六日に送り火をたいて送りだす仏教を中心とした行事であります。釈迦の弟子の母親が、死後餓鬼道に落ちて苦しんでいるので救いたいと弟子から助けを求められた釈迦は、盂蘭盆経を教説され、母親を供養したのがお盆の始まりだといわれており、この風習はインドから中国に渡り、そして日本に伝わって現在にいたっております。

新入社員紹介



いせ きくひと
伊勢 喜久仁

昭和45年3月29日生
中央工学校土木建設科卒
趣味 音楽鑑賞 柔道
配置 土木部土木課

私のひとこと

学生時代には遊んでばかりいましたので、会社に入ってから仕事をしていけるのか不安で一杯でしたが、入社後四ヵ月を経過し、先輩のご指導のもと、どうにか勤めてまいりました。今後なお一層努力しますのでよろしく願います。



おぐま のりふみ
小 熊 憲 史

昭和45年1月9日生
東北工科大学専門建築科卒
趣味 音楽鑑賞 読書
配置 土木部建築課

私のひとこと

当社の社員になってから四ヵ月、初めて建設現場に出ました。見るのも扱うのもしずべて初めてで、学問と現場の違いを痛感しています。先輩の仕事振りを見て学び、早く一人前になりたいと思います。



はた かずこ
八 端 和 子

昭和47年3月20日生
男鹿高等学校普通科卒
趣味 音楽鑑賞 卓球
配置 O A システム開発部

私のひとこと

このことを素直に喜ぶと同時にこの貴重な機会に社員としての自覚と精一杯働くための気持ちを養う必要があります。



O A システム開発部副主任
高桑 広貴さんの長男
清 吾 ちゃん

平成2年1月27日生

こんにちは 赤ちゃん

社員にかわいい赤ちゃんが生まれました。これから、当社も男鹿市も背負って立つ人材に育つよう、皆んなで、やさしく見守ってあげましょう。

私のひとこと
会社に入ってから早くも四ヵ月がたちました。仕事の方はまだわからないことが多く皆さんにご迷惑をかけてばかりです。学生時代の甘えを捨て、社会人としての自覚をもち、一日も早く会社に貢献できるように頑張りたいと思います。



総務部長
佐藤 恭一

適材適所で 士気の高揚を

昨年、加藤組はひとつの節目である創業五十周年を迎えました。その間、景気的好・不況を乗り越えて事業は順調に拡大してきております。

完成工事高でみると、私が入社した昭和四十九年は六億五千万円でしたが、その後、国の施策による公共事業の拡大と昭和五十八年の日本海中部地震の災害復旧等により、昭和五十九年八月の決算期には四十三億円になり、十年間に七倍にも伸びており現在まで三十億円前後で推移しております。

しかしながら、激動の時代のなかでは、今までの延長線上の考え方、旧来のままで運営していったのでは、発展を望めないばかりでなく、落ちこぼれの危険すらあります。本年六月に建設業法の一部改正があり、公共事業を行ううえで技術者の資格要件が厳しくなり、二箇所以上の兼務ができなくなりました。

このことから考えると、当社の現在の陣容で、完成工事

高を今以上に上げていくことはますます困難になってきます。したがって、これからは売上至上主義から脱却し、品質管理、原価管理を徹底し、少ない工事高のなかから利益率をあげる必要があります。

このためには、①個々の技術力の向上、②適材適所の配置、③工事の早期完成——等を図っていかねければならぬ

加藤組世紀の後半に提言する

昭和十四年に創業した株式会社加藤組は、今年五十一周年目を迎えました。これからは一世紀の後半に入るわけで、前半の五十年は順調に社業が発展しましたが、これからの五十年は大変です。昨今の厳しい建設業界のなかで、並大抵のやり方は発展はおろか生き残ることも難しい状態です。

そこで、当社为中心的に活躍している三部長に、世紀後半に向けての提言をしてみました。



土木部長
太田 健一

魅力ある職場 後継者の育成を

加藤組世紀の後半を迎えるに当たって、会社発展のために中心的な立場にあると自負している土木部が、どういう方向に進むべきかの試案を述べたいと思います。

第一には、技術集団のなかの一員としての人づくりが大切です。大過なく、無難に使命を果たすことでは、多様化

いと意思です。そして、実力主義に徹し、成績の良い人の表彰、優遇により、社員の士気を高揚させることがなによりも大切です。

また、社会の変化に対応していくためには、会社の基盤である財務体質の改善が急務であり、遊休資産の処分を含めた活用——現在、当社では宅地開発を行っていますが、

それをさらに積極的に進め、完全のためには全社をあげて努力しなければなりません。建設業界は今、若い世代から、三K（きたない、危険、きつい）といって敬遠されております。この職場を魅力あるものとするため、現在の社員が努力し、やりがい、働きたいを求める上昇指向の人材を引きつける必要があります。

に努めてはいますが、いまの若者が建設業を見る眼は「汚い、重労働、休日少」の三点であり、これらのひとつでも早く解決する必要があります。そのうち、休日増については、ムダのない施工管理、適切な計画性を徹底することに



建設機械部長
夏井 勉

能率向上と安全は 車の両輪

最近の建設業界は、人手不足が重大な関心事になっております。当社でもその例にもれず、技術者も一般労働も少ない陣容で苦勞しています。それを乗り切るにはどうすればよいでしょうか。

当然の話ですが、個々の能率をアップすればよいわけですが、そのためには、作業員に對して、その日その日の目標を明確にし、「こまわり」的な形にして意欲を高めることもひとつの方法だと思います。舗装とか建築などは、このような方法はとれないと思いますが、一般土木の場合はできると思います。それによって、その日の仕事の区切りが

つき、現場担当者の工程管理の面で役立ち、目標達成、能率向上が図られると思いますので、一度戦略的に導入してみたらどうでしょうか。

仕事と安全は車の両輪の關係にあり安全の確保が能率の確保に直結するということが全員が認識する必要があります。当社では安全大会の席上で安全表彰し、賞状と記念品によって従業員の安全意識の高揚を図っておりますが、安全意識は本人だけでなく家庭も含めたものにする必要があります。そのため、表彰の時に奥さん（独身者の場合はお母さん）を招待したらどうでしょうか。

自分の父が、夫が、子供が今日一日無事で仕事をするよう願う家族の気持ちが職場に反映されると思います。表彰の記念品には、いろいろ配慮している積りですが、誰にも喜ばれる品物を選ぶのは大変です。できれば金一封（現金）が一番よいのではないかと思います。表彰記念の品物が残ることも有意義ですが、表彰でもらったお金で家族みんなでスキ焼でも食べながら安全の喜び、仕事の喜びを話せば効果があります。

世紀の後半に向けて、能率の向上、そのための安全確保に努めたいと思います。

現場レポート

岩瀬道路改良工事 軟弱地盤に挑む

土木主任 渡部 邦明

工事場所

秋田市金足岩瀬字松館地内

工事内容

盛土 十万四百㎡

(路体延長 四四七m 平均幅員二五m)

工事期間

三月三十一日から来年一月十日まで



秋田も高速交通時代に入り、東北横断自動車道のうち、秋田・横手間は来年の秋に開通する運びになりましたが、秋田市古野の秋田インターチェンジから秋田市の東側の外周を北上し、昭和町元木山公園付近で国道七号線に合流するバイパスが、建設省秋田工事事務所で計画され、その工事が始まっており、その一部である金足岩瀬地区の工事を当社と菅与組とのJVで受注しました。

この工事は、特別な構造物はなく盛土十万㎡という、工種だけをみれば単純にみえますが、軟弱地盤の盛土ということで、技術的に大変苦労しております。

現地は、昔の沼地を田圃にした地帯であるため、どんどん盛土すれば側方流土現象が起こり、隣接の田圃が盛り上ってしまいます。したがって、いきなり路体を作ることができ

平凡に見える盛土現場
しかし、この底に悩みの種がひそんでいる



田中副主任

ず、五mの沈下予定を見込み三年かけて堅固な地盤作りをするという緩速盛土工法が採用されています。

一日当たりの盛土高は五cmに制限されていますから、盛土予定全面積で約七百㎡で、それを五、七台のダンプで二十往復で消化しております。

毎日の沈下状況の観測にも

神経を使いますので、文章に書けば簡単なようですが、腫れ物にさわる感じしております。盛土土砂は近くの国道沿線で掘削していますが、交通量が多いところで、しかも現場が狭いため、重機作業の連携と誘導に神経を使っています。

いまのところ工事は順調ですが、十万㎡の緩速盛土ですから、工期内に余裕をもって完了できるよう、菅与組の担当者及び田中副主任とのチームワークよろしく頑張っております。

現在実行中の
主なる工事現場

● 地方港湾改修工事

防波堤築造

工期 十月三十一日

現場代理人 夏井直弥

● 交通安全施設整備工事

切・盛土工、舗装工ほか

工期 十一月二十日

現場代理人 成田義則

● 生物資源総合開発センター

建物七棟、延七〇一㎡

工期 三年七月三十一日

現場代理人 伊藤 満

● 男鹿海域礁設置工事

タートルブロック沈設

工期 十月三十一日

現場代理人 鈴木耕一

● ふ頭用地造成工事

方塊ブロック据付

工期 十一月三十日

現場代理人 伊勢谷寿

● 緊急地方道整備工事

切・盛土工、路盤工ほか

工期 十二月二十八日

現場代理人 荒木 聡

● 西五丁目下水道管渠敷設

マンホール ヒューム管

工期 十一月三十日

現場代理人 三浦喜代見

● 西寒風山麓地区開拓整備

路盤工、舗装工 五五九m

工期 九月二十日

現場代理人 石川 守

旅

2題

青藤会 協力会

合同で古牧へ



総務部長代理
伊藤 剛 樹



目的地は酒？浴衣がけで盃を酌みかわすことがやはり慰労の決め手か。

六月十六日〜十七日の両日、青藤会と協力会の合同による研修旅行が実施されました。目的地は青森県の古牧温泉で、参加者は三十名でした。出発の間もなく雨が降りだし途中予定していた観光地へは寄ることもなく一路目的地まで直行することにになりました。

バスの中は、予想どおり飲みや歌えの大宴会場となつて盛り上り温泉旅館での宴会は、皆さん方お疲れの様子で、ジュースや水のオーダーが多かつたようです。それぞれ浴衣を着て寛いだ形での一杯はまた格別で、それなりの楽しい一夜でした。帰路は十和田湖経由でした。遊覧船に乗りました。山々は新緑が映え、朱色の絶壁との

対象が眼をひきました。また乙女の像などを眺め、心がなごむひとときを過ぎました。今回の旅行を振り返ってみますと、目的地やコースがなかなか決まらなかつた関係もあって、途中の名所、観光地の見物が少なく、ただバスにゆられている時間が多かつたように思われます。

次回早目に行き先やコースを決め、多くの名所へ立ち寄れるよう余裕のある計画を樹て、出発前からムード作りをすれば一層有意義な研修旅行になると思います。



技術管理部 課長代理
米谷 真 一

独身者は 鳴子温泉へ

独身社員は、今回は三回目になり、独身者はそ

なにはともあれ、事故もなく、トラブルもなく無事帰ることができ、幹事として胸をなでおろしております。

若者は歌う、声高らかに。この笑顔を職場にも。



若者は歌う、声高らかに。この笑顔を職場にも。

今年、六月十六日から一泊二日の予定で宮城県の鳴子温泉まで足を伸ばし、帰りは岩手県の小岩井農場に立ち寄るといふ計画を樹てました。十六日の朝八時に本社前を出発、途中で一人、二人とひろい、全員揃つて十三号線を南下しました。湯沢の焼肉レストランで昼食をとり、一〇七号線で鳴子へ向いました。この鬼首街道は景色がよく紅葉の頃だとなお良かったと思います。

二時三十分鳴子着、まず鳴子こけし館を見学しました。そこで東北の様々なこけしの実物を見、ビデオによるこけしの歴史、職人によるざやかな手さばきなどを見て、感嘆しました。こけしは、単純で素朴な玩具ですが、それだけに色々の発想ができ、飾りのない美しさにひかれまして。人間でも心がすっかりしておれば、自然に容姿に表われるのでしょうか。四時、鳴子ホテル到着。ゆつくり入浴して一日の疲れをとり、六時から会食。湯あがりのあとのビールの味は格別で、日頃の心配ごとなどすっかり忘れられるほどでした。夕食のメニューは、山々に囲まれた鳴子温泉ですので、新鮮な魚はありませんでしたが山の幸が一杯で、飲むほどに元気がでて、ホテルで準備してくれたレーザーカラオケで歌いだし、大いに盛りあがって、ホテル内のスナックでの二次会もまた楽しく、夜の更けるのも忘れて青春を謳歌しました。



小山田 定昭

社員登用

今回は旅行計画やホテルの手配など自主的にやれてよかつたと思っております。

昭和39年5月19日生
昭和61年8月入社
O A システム開発部勤務

土崎 中学校 二年連続(5回目)の優勝

第十二回加藤杯争奪選抜少年野球大会は、梅雨晴れの六月三日、加藤球場において行われました。

今年は精英をしばって四チームを招待しましたが、なかでも創立間もない能代東中学校をめぐっての熱戦が期待されました。



優勝メダルを授与する社長

スポーツ情報

Base ball & Gate ball

準決勝①

男鹿東中

0001003
0000011
2 4

能代東中

これまで準優勝四回の実績をもつ地元の男鹿東中学校は「今年こそ」の決意で初出場。能代東中学校と対戦した。男鹿東に固さがみられ、前半から中盤にかけては淡々と

準決勝②

船川中

1010000
3100100
5 2

土崎中

初回の攻防が試合の明暗を分けた。土崎中の塚本投手は四回以降立ち直り、相手にチ

進行していたが、最終回に男鹿東は、四球と敵失に乗じて安打を連ねて緒戦を突破した。

サンライズ(秋)が初優勝 日本海ゲートボール親善大会



①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚
ヤンスを与えなかった。

決勝

土崎中

0000400
0000000
0 4

男鹿東中

両投手の好投で息づまる投手戦を展開したが、男鹿東の加藤投手は連投で力尽き、五回に連打を浴び、初優勝の悲願は達成できなかつた。

三位決定戦は四対四の同点から、初めてスペシャルゲーム(無死満塁の配置で攻撃して得点をあげる方法)が適用され、九対八で遠来の能代東中学校が勝利をおさめました。この一日、加藤球場は少年たちの真剣なプレーに酔い夕陽が参加者全員の頬を紅に染めたのが印象的でした。

日本海の夕陽を親しむ地域の愛好者を集めて親睦を図るため、男鹿市ゲートボール協会(当社社長が会長)が主管する「日本海ゲートボール親善大会」も数えて五回という節目を迎えました。

今年も好天に恵まれた男鹿総合運動公園に遠来の津軽GBC(前年度優勝)を始めとする七十六チームが参加して熱戦が繰り広げられ

その結果、秋田市のサンライズが津軽GBCの連勝をばみ初優勝を遂げました。地元の男鹿市からは三十チームが出場し、決勝トーナメントに二チームが勝ち残りしましたが、今年もベスト8への進出はなりませんでした。ゲートボールは、高齢化社会における健康増進の役割りをもちながら、後継者難を心配されていますが、今回の参加者を見る限り、まだ若い者に負けない元気さでした。

人事異動

(株)加藤組 2・2・1付

○太田 健一

土木部長

○船木 金次

技術管理部長代理

○米屋 真一

技術管理課長代理

○三浦 久美子

総務部副主任

○鈴木 義博

建設機械係長

○当社では、二月から各部を数名ずつのチームに編成し、各チームが相互に連携をとりながら競って業務を推進することとし、そのキ

ヤップとしてチーフリーダー制を採用し、次のとおり任命しました。

○土木部チーフリーダー

鈴木 耕一 佐藤 忠成

小野 俊剛 伊勢谷 寿

石川 守 伊藤 満

原田 博信

○総務部チーフリーダー

梁田 耕次 伊藤 剛樹

○海光号チーフリーダー

佐々木敏雄 江畑 芳克

光飯商事(株) 2・2・1付

○栗森 吉照

システム課長

○OAシステム開発部チーフ

リーダー

栗森 吉照 鈴木 浩悦

○秋田建設運輸(株) 2・2・1付

鈴木 頼男

秋田建設運輸(株)勤務

ゼロ災に向けて発進!!

決意新たに平成2年度安全大会実施

平成2年度安全大会は七月六日の午後、従業員百二十名、協力業者四十社が出席し、加藤道場において盛大に実施されました。今年はずでに労働災害が二件発生したほか、人身事故の伴わない交通事故、物損事故が五件のほり、なかでも建設運輸所属の生コン車が、交差点で二人乗りのバイクを巻き込み、一人死亡、一人重傷という悼ましい事故も起こりました。

生命の大切さを強調する社長



保安帽のあご紐を締めることは心を引き締めることです

秋田労働基準監督署 佐々木次長



秋田労働基準監督署の佐々木次長の安全講話は、一時間余りにわたって懇切丁寧に、みんなが理解できる言葉でご教示いただきましたが、具体的なものとしては次の三点を

強調されました。

①日本海中部地震は丁度昼休みの時で、船で働く作業員も救命胴衣は一旦脱いでいたわけですが、津波が押し寄せた時に、再び救命胴衣を着用したかどうかが生死の別れ目でした。自分で身を守る気持ち身を守る動作が肝要です。

②安全確保については、職場のみならず話合することが大切です。不安全箇所や不安全行動については、自ら改善することは当然ですが、気がついたら、知っている者が知らせる義務があります。これが職場での安全の話合いです。

③保安帽の着用は法的に義務づけられていますが、あご紐を締めることはおろそかにされています。転倒、転落の時に、折角着用していた保安帽が脱げてしまつてはなりません。あご紐を完全に締めることは、心を引き締めることにもなります。

協力業者の代表による安全発表は、今年が開発株式会社能代営業所長の後藤(写真)さんをお願いしました。



後藤所長
は「当社の
主な業務は
建設資材の
提供である

が、材料を納入する際には「安全」を一緒に納入する心構えでいる。当社が納入した資材に関連した事故が起きないように全社員がねがいを込めている。また、社内での安全教育は、集中的に行うより、朝のひと言や、その場その場のひと言の注意を主体とし、それが効果的であると考えている」と強調しました。

今年の全国安全週間のスローガンは「災害ゼロはみんなのねがい、あなたのために家族のために」でした。安全週間は終わりましたが、災害ゼロのため、決意を新たにしてい進みましょう。

表彰された方々

この大会で表彰された方は、従業員五名、協力業社二社でした。表彰された方々に心からお祝い申し上げます。この表彰を機に現場の安全活動の推進役になることを期待します。



門脇敏男さん
(土木)

JRから出向して日も浅いが、当社の事業に駆け込み、安全作業の実績をあげている。



鈴木正美さん
(土木)

舗装機械の運転に当たり、一般通行にも気を配り、事故なく、能率的に実行している。



鎌田フキ子さん
(土木)

女子作業員のまとめ役として、安全第一を文字どおり実践している。



三浦幸夫さん
(土木)

上司の安全指導を忠実に守り、無事故を続け、同僚間の協調も優れている。



船木光一さん
(港湾)

船舶関係の少ない陣容のなかで、手際よく安全に作業を進めている。



株式会社伊藤技巧様
男鹿市船川港比詰字羽立才ノ神6-6



開発株式会社様
秋田市川尻字大川反170-88

加藤組のあゆみ ①

私が入社した頃

私の家は農家です。学校を卒業してからは農業に従事しながら、農閑期は、夏は北海道、冬は関東や関西方面の出稼ぎというサイクルで暮らしておりました。

昭和三十六年に加藤組が生鼻地区の護岸工事を実施した時と、昭和三十八年に椿漁港の護岸工事をした時に臨時作業員として出役したのが、私と当社との出会いでした。

農閑期の出稼ぎもそれなり魅力がありましたが、地元

で就職するのが私の夢でしたので、たとえ臨時作業員でもあっても、当社にお世話になることができて幸せでした。

昭和四十年に常用にしていたとき、秋田市の土地改良の事に従事しました。その時の上司が、今は亡き佐藤前副社長で、仕事はもちろん、生活態度や酒の飲み方も勉強させられました。前副社長は一緒に酒を飲む時は友達のようにでしたが、そんな気持ちの延長で仕事をしようものなら厳

しく叱られ、仕事とはこういうものだと思われ、隔々まで叩き込まれました。

昭和四十二年から三年間は湯の尻のアスファルトプラントの責任者として、十数人の作業員の指揮をとることになりました。プラントと聞いても小規模の自動式みたいなもので、ドラム缶に入ったアスファルトを焚火で融かすことから始まり、8屯ダンプ一台分の合材を作るのに四十分もかかる有様で能率があがらず

舗装現場には大変迷惑をかけたものでした。そんな時には監督の伊勢部長には親身になって面倒みてもらいました。

今振り返ってみると夢のような話ですが、若い頃というものには頑張りがきくものだしその頃の頑張りや勉強が、定年を間近かに控えた私の心の支えになっており、もうひと鞭当てて会社にご奉公したいと思っております。

(土木部次長・鎌田惣市郎)

栄えある建設省表彰

滝の下道路第一工事

現場代理人
荒木 聡

賞状



林業省建設省同業協会
賞状は建設省の滝の下道路
改良第一工事と橋梁工事
優秀な成績を挙げられました
よって第四十回建設省に
よりこれを賞します
昭和四十二年八月二十日
建設省地方建設局長
森本裕士

紹介 三 リー ア フ

土木係長 (31歳)

小野 俊剛さん一家

祖母 ハナさん (80歳)
父 惣一郎さん (57歳)
母 成子さん (56歳)
妻 京子さん (31歳)
長男 大士朗ちゃん (3歳)



小野俊剛さんは、秋田工業高校土木科を卒業し、昭和五十二年四月に当社へ入社、港湾課に配置されました。

その後、能代港建設事業所主任(日本海中部地震の一週間前まで)、船川事業所主任などを経て昭和六十一年一月に土木係長に昇任、今年からは新たに制度化された土木部チーフリーダーとなり若手社員のまとめ役として活躍しております。

この間、一般表彰も受け、出勤率良好では二回も表彰されております。これも学校時代にサッカーなどで鍛えた身体と、公務員(お父さんは農林水産省食糧事務所勤務)の家庭に育った律義さと、さら

に仕事に対する責任感がそうさせていると思います。

小野さん一家は、今では珍しい四世代家族で、六人(写真には甥の政孝君も入っています)がそれぞれの世代の特徴を活かしながら仲良く暮らしています。

奥さんは船越出身で、秋田北高から宮城女子短大を卒業して当社に入社した職場の花で、小野さんが当時熱中していた綱引きの要領で、花を総務から土木へ引張ったという評判でした。

二人の間に生まれた大士朗ちゃんも三歳になり、そろそろ妹を欲しがると頃になりました。その期待に二人がいつ応えられるか楽しみです。

後記 編集

八月十五日は終戦記念日です。戦後四十五年になり、平和の有難さを忘れがちですが、社会、会社家庭それぞれの平和は、みんなが努力して築き、継続していくものです。お盆休みには、このことも考えたいものです。

一年で一番暑い八月ですが暑さに打ち勝つ体力と気力を養い、年度後半の四カ月を精一杯頑張ります。